

1-8		主題	楽しみでもあり、健康の基本でもある食事時間の工夫により、利用者の生活の質の向上に繋げる。	
一日24時間		副題	如何にして、人員配置を変えずに、利用者に沿った時間を作り出すことができるかどうか。	
ゆとりの食事時間				
研究期間	9ヶ月	事業所	介護老人福祉施設 特別養護老人ホーム和光園	
発表者：八木澤 泰仁（やぎさわ やすひと）				
共同研究者：志津 剛				
電話	042(374)2590	メール	sugawara-wakouen@if-n.ne.jp	
FAX	042(374)1410	URL	http://yamatokai-tokyo.or.jp/	

今回発表の事業所やサービスの紹介	当施設は、多摩市にあり、昭和40年設立の定員130名、ショート専用4床の民設民営の従来型施設である。市の高齢化率は、23%に達しております。併設したケアセンターもあり、通所介護・認知症対応型通所介護・訪問介護・居宅介護支援、また地域包括支援センター・市配食サービス・シルバーピアを行っており、同一法人の特養愛生苑も近隣にあります。
------------------	---

《研究前の状況と課題》 シフト上の食事介助の配置人員の問題で、食事をゆったりした雰囲気の中でとれずにいる現状があり、食事摂取状況にしても、雰囲気にしてもざわざわしていて、利用者の方に負担がかかってしまっていた。職員も、人がいない、後で臥床させるスタッフが足りないということで、業務改善委員会の中で話し合いを行っていきました。 その一つは、利用者の食事時間に合わせた介助ができていない、という点でした。二つは、職員も後仕事で頭が一杯になって、落ち着かず、バタついた雰囲気になってしまっている点がありました。	《研究の目標と期待する成果》 まず第一に利用者一人一人の適切な食事時間を把握するということがあげられます。第二に、職員が利用者に向き合う、話をする時間が作られるかどうかということ、それは職員の気持ちのゆとり部分となってくることが期待され、第三としてその結果、食事時間中の事故防止が促進されることがあります。第四として、食後の嘔吐の数が低下することが促進されることも成果として期待する部分です。第五に、結果として食事介助以外の部分の介護においても、時間の使い方、人員の配置を柔軟に考えていくことができ、利用者と話をしたり、外へ出かけたりする時間を生み出すことができるようになる。 最終的には一日の流れを利用者に沿ったスケジュールになることを目標としています。
---	---

《具体的な取り組みの内容》

平成22年度業務改善委員会を月一回実施。職員からもっと利用者と話をしたい、向き合いたい、との声が上がった。逆に今の排泄・入浴・食事の3大介護に追われている状況であった。その中で全課の業務タイムテーブルを出し合い、いろいろな意見を出し合った。その中で特養とデイサービスの違いから24時間という枠の中で、もっと時間を広く考えていくことはできないかとの話になる。何時から何時までに何かをやらなければならない、ではなく利用者の生活の流れで考えていくことはできないものかと。その最初の取掛かりとして日中人員の厚い昼の食事の時間の中で、時間枠を拡大して、利用者もゆったりと食事をでき、職員も利用者のペースで食事介助をできるのではとの意見がでてきた。他部署も関連することであり、栄養課の下膳から食器洗浄時間、そこから夕食時間への影響が予測されたが、管理栄養の観点からもしっかりとした食事摂取による必要カロリーの摂取は大切であり、前向きに全課で検討していった。最初は職員の中に業務の流れを変えることへの不安の声も上がったが、一つ一つ解決し、繰り返し業務改善委員会の中で討議して、当初月一回から初めて、今年になり毎週木曜日となり、今年度は日曜日以外の毎日ゆとりの食事時間として実施している。

《取り組みの結果と評価》

始めは慣れない人員配置、時間配分の中で焦りや戸惑いがあり、ゆとりであるにもかかわらず食事の介助時間が変わらなかったり、食事介助、横臥介助にかかわる人員を分けたことにより、今まで以上に負担があると言う声も職員から上がったが、慣れていくとともに時間を有効に使えるようになり、できるかぎりゆっくりと利用者に向き合い介助を行えるようになってきた。又自立で摂取する利用者にも目を配り今まで以上に関われるようになった。結果、誤嚥の防止、摂取後すぐに横臥する事による嘔吐の防止につながり、安全に介助を行えるようになった。

《まとめ》

昼食については時間を変更したことにより、今までよりもゆっくりと時間をかけ安全に介助を行うことができ、利用者に向き合え、結果利用者の負担が減った。今後は1日のスケジュールを広い枠で考えていき、朝食、夕食、及び排泄介助や入浴介助などの他の介助についても園全体で考えていき、利用者の方々のリスクを減らし安全でより良い、ケアを行っていききたい。

《提案と発信》

【メモ欄】